

資料4

教育旅行受入推進セミナー 取り組み紹介

2023年11月22日 平 一真

自己紹介 ～経歴～

- 平成3年生まれ 32歳
- 平成22年 帯広農業高等学校卒業
- 平成26年 帯広畜産大学畜産学部卒部
- 平成26年4月～ 就農 JA新得町青年部入部
- 令和4年～ JA新得町青年部部長
- 令和5年～ 十勝地区農協青年部組織協議会 副会長

自己紹介 ～農園の概要～

・十勝型畑作・野菜(43ha)

小麦(8.5ha)、甜菜(8.5ha)、馬鈴薯(8.5ha)、大豆(3ha)
小豆(2ha)、南瓜(6ha)、ブロッコリー(2.5ha)、人参(1ha)
加工用スイートコーン(2ha)、サヤインゲン(1ha)

・父、母、妻、季節雇用2人

- ・新得レディースファームスクール生（4月～10月）
- ・本別農業大学校 実習生（1か月）
- ・拓殖短大 実習生（2週間）

農村 ホームステイ

・2011年 食の絆を育む会
修学旅行生受け入れスタート

受け入れ人数
民泊：67校 299人
日帰り：4校 141人





大阪を中心に関西圏の高校が多い



コロナ禍でも農業体験の需要は高い



兵庫県立豊岡総合高校 事後学習

農村ホームステイが果たす役割

- コロナ禍によって改めて浮き彫りになった日本の食料安全保障問題
- 消費者に「いのちと暮らし」の源である『食』と『農』の価値を高めてもらい、農業に対する理解促進を図ることが重要
- 次世代を担っていく学生たちにホームステイを通じて伝えていくことがさらに求められている。

とがち農業・絆プロジェクト

- 十勝地区農協青年部協議会による農村ホームステイ事業
2012年～スタート
- 消費者に『食』と『農』の価値を高めてもらい、農業に対する理解促進を図り『十勝・農業』の応援団になってもらうために、ホームステイと事後学習等を組み合わせた事業を実施。
- 2014年からは北海道大学小林准教授との連携により、卒業後農業関係の団体や官庁、教員等として活躍する人も多い北大生の受け入れを行っている。

とがち農業 絆プロジェクト

受け入れ盟友
92人

北大生受け入れ人数
201人



とがち農業絆プロジェクト
～農村ホームステイ

十勝の農家で1泊2日の
ありのままの農村生活を満喫しよう！



とちぎ農業・絆プロジェクト



とちぎ農業・絆プロジェクト ～入村式～

食の絆を育む会の修学旅行生受け入れを経験している農家も多い。

初めて農村ホームステイを受ける農家もいる。

とがち農業・ 絆プロジェクト ～作業の様子～



とがち農業・ 絆プロジェクト ～事後学習～



12月には北大にて農業
の様々なテーマを学生
と共に議論し、発表し
合う事後学習を行う。

受け入れ農家の感想

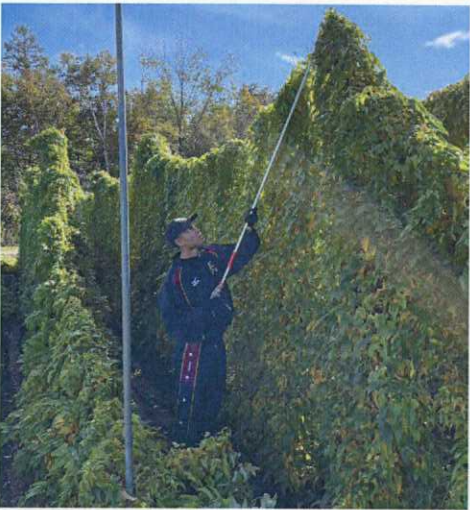
- 畑作農家
 - 農村ホームステイの受け入れは初めて
 - 作業内容
 - ：トラクターオペレーター（デスクがけ）
 - ：そばコンバイン収穫 など
-

受け入れ農家の感想

- 酪農家
 - 農村ホームステイの受け入れは初めて
 - 作業内容
 - ：トラクターオペレーター（デスクがけ）
 - ：そばコンバイン収穫 など
-



全ての体験が学生たちにとって新鮮



全ての体験が学生たちにとって新鮮



農村ホームステイ
～新たな出会いが生む絆～



農村ホームステイ
～繋がる想い～

農村・農業の**魅力**を伝え、

『**十勝**』『**道東**』『**農業**』

への理解を深めてもらい、

応援団になってもらおう！